

あかえっこ図書館だより

にじのかけはし



令和3年12月14日 No.8



心にサンタクロースのすむおへやを・・・

今年のカレンダーも残り1枚となり、子どもたちが楽しみにしている冬休みが近づいています。あかえっこ図書館は、12月の装いとなりました。この時期になると、子どもたちの会話に登場してくるのが、サンタクロースです。

私は、子どもたちの心の中にサンタクロースのすむおへやがあるとよいなと願っています。松岡享子さんの『サンタクロースの部屋～子どもと本をめぐる～』という本の中に、私がなぜそう願うのかが書いてあります。

「心の中に、ひとたびサンタクロースを住ませた子は、心の中に、サンタクロースを収容する空間をつくりあげている。サンタクロースその人は、いつかその子の心の外へ出ていってしまうだろう。だが、サンタクロースが占めていた心の空間は、その子の中に残る。この空間がある限り、人は成長に従って、サンタクロースに代わる新しい住人を、ここに迎え入れることができる。」

「この空間、この収容能力、つまり目に見えないものを信じるという心の働きが、人間の精神生活のあらゆる面で、どんなに重要かはいうまでもない。のちに、いちばん崇高なものをやどすかもしれぬ心の場所が、実は幼い日にサンタクロースを住ませることによってつく



荒金先生が、毎月、プログラミングして製作して下さる楽しい掲示コーナーです。

あることをすると、AKAEの文字がキラキラと光って、クリスマスソングが鳴り響きます。さて何をするのでしょうか？



図書館前の掲示板には、アドベントカレンダーがはってあります。毎日その日の封筒を開けると、クリスマスにまつわるお楽しみが入っています。クリスマスの絵本、ぬりえ、折り紙の折り方などなど・・・何が出てくるのか楽しみです。

られるのだ。別に、サンタクロースに限らない。魔法使いでも、妖精でも、鬼でも仙人でも、ものいう動物でも、空飛ぶくつでも、打出の小槌でも、岩戸をあけるおまじないでもよい。幼い心に、これらのふしぎの住める空間をたっぷりとしてやりたい。」(『サンタクロースの部屋～子どもと本をめぐる～』松岡 享子「サンタクロースの部屋～はしがきにかえて～」より こぐま社)

幼いころに読み聞かせてもらった本の中に登場する不思議な人物たちに、心躍らせ、何度も何度も空想の世界へ翼を大きく広げて旅したことを思い出します。幼き日の私の中に、まちがいなく不思議の住む空間はあったのだと思います。大人になっても、不思議なお話の世界にずっと入っていくことができるのは、この幼い日の小さな旅の積み重ねがあったからなのだと感じています。

あかえっこたちにも、この不思議の住める空間、サンタクロースのすむおへやをもってほしいなと願います。楽しいこともつらく悲しいことも、この不思議の住める空間を心の中に持つことで、乗り越えていく力に変えていくことができると思います。

あかえっこのみんなに、たくさんの心の糧となる出会いがありますように…



新聞コーナーには、世界の情報がいっぱいです！興味を持ったことにつながる本探しをぜひ！

あかえっこ 家読にチャレンジ

12月25日(土)から始まる冬休みの期間に、あかえっこ図書館で借りた本の中から家族で家読に取り組んでいただければと思います。家族ふれあい読書の時間を楽しんでいただきたいと思います♪

<あかえっこ家読カードについて>

取り組む期間：12月24日(土)～1月12日(月)

取り組む方法：大人と子どもが一緒に本を読み、感想を伝え合い、カードに書く。



本の読み方…同じ本を読む、同じ時間に読む、読み聞かせをし合うなど
カード…読んだ日、本の題名、一緒に読んだ人、感想などを書きます。

⇒低学年の人は、大人に読み聞かせてもらってもよいです。

☆あかえっこ家読カードは、1月13日(金)までに担任の先生へ提出してください。



新しい年が、みなさまにとって良い年でありますように…

文責：司書教諭 岡 鶴子

